

みらいずカレッジ～探求の問いづくり編～レポート

新潟大学 教育学部 3年

丸田 壘

【本講座参加の動機】

本講義の参加の動機は、「探求の問いづくり」というテーマに目を引かれた。というのも、私が教育実習を通して、「問いの重要性」を感じたからである。私は、初めて教育実習で授業をつくり、それを行った。しかし、授業の中身は、察しがいい子どもたちが、先生の求めている答えを出す授業。主体的に考え、活動する授業には程遠いものであった。その時、子どもたちが、前のめりになって楽しい授業を展開するには、「質の高い問い」を用意することが必要だと実感した。だから、本講座に参加することを通して、上質な問いを作るヒントを得たいと思い、参加に至った。

【学んだこと、自己の変化】

私が、特にこの講座を通して学んだのは、「問いの焦点化」である。具体的に述べる。私は、今まで問いを作るときに具体性が重要であると考えていた。というのも、具体的でない、何を答えればいいのか分からず、被質問者は困るからである。だが、今回の「問いの焦点化」は一度、ある事象に対して、幅のある抽象的な問いをつくり、そこから、幅広く、具体的な問いを立てていった。一見、具体的な問いの方が考えやすいかと思いきや、抽象的の方が、幅広く、深く思考を巡らせることができることを学んだ。ただ、抽象的な問いだと、考えが浮かばなかったり、収集がつかなくなったりするデメリットも存在すると感じたため、学校教育で使用する場合には何らかの手だてを講ずることが必要だと思った。

【今後への活かし方】

今回の問いづくりの使用法の一例として、国語の授業の導入に使用する。一度、物語や説明文の概要を把握した後に、そこから、内容の面で疑問に思ったことを書きだしてもらおう。その後、問いをつくり、答えを読み解いていくというように、使用できると思った。そして、問いづくりの他にも、「大切な友だち」などの授業づくりで使用できる小技をいくつか学んだので、実際に使っていきたい。

【感想】

今回は、自分の先行知識の無さゆえに、自分の中で落とし込めていないと感じている。であるから、今後の教育実習や教員生活に活かせるようにするには、さらなる内容把握が必要だ。参考資料をすぐさま購入し、精読することで、理解を深めていきたい。